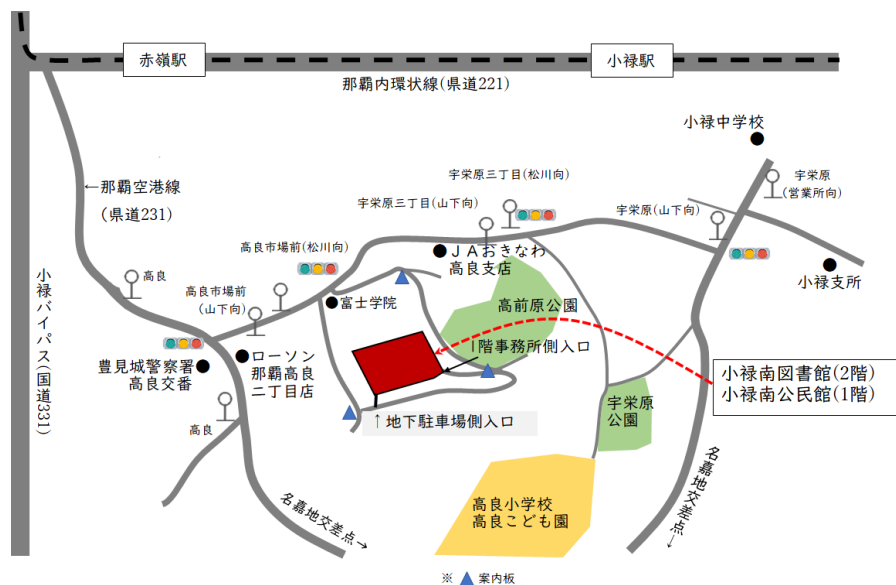


小禄南公民館



〒901-0145 那覇市高良 2-7-1
TEL 917-3444 FAX 858-0220
(URL)
<https://www.city.naha.okinawa.jp/kurasitetuduki/sankaku-kyoudou/1002706/1004745/1004758/index.html>



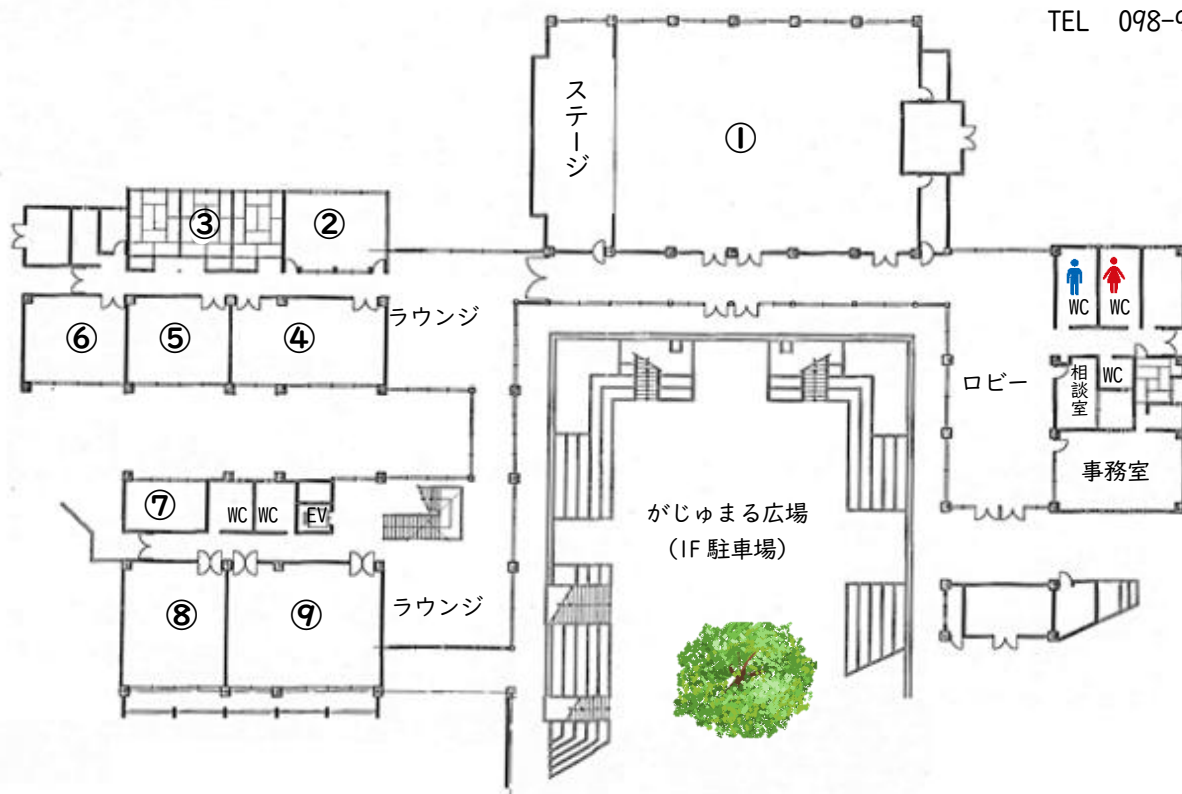
小禄南公民館 HP

利用施設のご案内

〒901-0145 那覇市高良2-7-1 1階

小禄南公民館

TEL 098-917-3444



部屋名	利用可能人数	会議用テーブル等の配置	用途及び備品
① ホール	300 人程度	最大 32 台 (8 台×4 列スクール配置)	講演会等 (ステージ・グランドピアノ・会議用テーブル・椅子)
② 児童図書室	12 人程度	最大 6 台 (スクール配置・ロの字配置)	集会・学習会等 (会議用テーブル・椅子等)
③ 和室 ※10 畳 3 間	30 人程度	最大 12 台 (会議用座卓テーブル)	集会・学習会等 (会議用テーブル・椅子等)
④ 中研修室	30 人程度	最大 12 台 (6 台×2 列スクール配置)	集会・学習会等 (会議用テーブル・椅子等)
⑤ 小会議室 A	16 人程度	最大 8 台 (スクール配置・ロの字配置)	集会・学習会等 (会議用テーブル・椅子等)
⑥ 小会議室 B	16 人程度	最大 8 台 (スクール配置・ロの字配置)	集会・学習会等 (会議用テーブル・椅子等)
⑦ 団体連絡室	8 人程度	最大 4 台 (スクール配置・ロの字配置)	集会・学習会等 (会議用テーブル・椅子等)
⑧ 実習室	30 人程度	調理台 (講師用 1 台+6 台) ※各台コンロ 2 口	調理実習 (調理台・椅子・冷蔵庫・調理器具・食器)
⑨ 視聴覚室	40 人程度	最大 15 台 (5 台×3 列スクール配置)	学習会・映写会等 (会議用テーブル・椅子等)
ロビー・ラウンジ			

I 小禄南公民館の沿革

建設の設計については、一般公募（競技設計）方式を採用し、昭和56年9月24日建設に着工、昭和57年3月31日に竣工した。

同施設は、旧小禄支所跡の丘陵地帯で小禄地区の南に位置し、その規模、設備等は当時最も進んだ近代的な公民館として、昭和57年5月14日開館した。

昭和57年4月1日	小禄南公民館の発足に伴い、主査 兼城賢真が発令された。
5月13日	小禄南公民館の開館式が行われた。
昭和61年4月1日	主事が公民館主事に職名変更された。
平成元年4月1日	主査 兼城賢真が配置換えにより、主査 伊元源治が発令された。
平成2年4月1日	主査が館長に職名変更された。
12月7日	第20回沖縄県公民館研究大会において優良公民館として表彰された。
平成3年4月1日	館長 伊元源治が配置換えにより、館長 前原信喜が発令された。
平成4年2月14日	第39回沖縄県生涯学習振興大会において優良公民館として表彰された。
平成5年2月28日	開館10周年記念式典及び祝賀会・記念誌が発刊された。
平成6年11月1日	第47回優良公民館として文部大臣表彰を受ける。
平成7年10月1日	館長 前原信喜が配置換えにより、館長 中村英雄が発令された。
平成8年4月1日	公民館主事1減に伴い社会教育指導員1増
平成10年4月1日	館長 中村英雄が配置換えにより、館長 新里重雄が発令された。
平成13年4月1日	館長 新里重雄が配置換えにより、館長 阿波連寛が発令された。
平成16年4月1日	館長 阿波連寛退職により、館長 新里重雄が発令された。
平成17年4月1日	館長 新里重雄退職により、館長 新垣絹代が発令された。
	社会教育指導員1減
平成19年2月15日	那覇市小禄南公民館は沖縄県豊見城警察署長より感謝状を表彰された。
平成19年6月20日	うるく地域づくり連絡協議会(事務局小禄南公民館)創立十周年記念誌が発行された。
平成19年11月22日	第37回沖縄県公民館研究大会において館長新垣絹代が功労者表彰を受ける。
平成20年4月1日	館長 新垣絹代が配置換えにより、館長 比嘉勉が発令された。
平成21年4月1日	館長 比嘉勉が配置換えにより、館長 上原善英が発令された。
平成24年3月	「小禄の拝所」が発行された。
平成24年4月1日	館長 上原善英が配置換えにより、館長 島袋元治が発令された。
平成26年4月1日	館長 島袋元治が配置換えにより、館長 比嘉康裕が発令された。
平成28年4月1日	館長 比嘉康裕が配置換えにより、館長 上原昭則が発令された。
平成29年3月1日	第69回優良公民館として文部科学大臣表彰を受ける。
平成30年4月1日	館長 上原昭則が配置換えにより、館長 天久尊哉が発令された。
平成31年4月1日	館長 天久尊哉が配置換えにより、館長 上江田久美子が発令された。
令和3年4月1日	館長 上江田久美子が配置換えにより、館長 高良篤伸が発令された。
令和5年4月1日	館長 高良篤伸が配置換えにより、館長 小渡美奈が発令された。
令和7年3月	小禄南公民館・図書館外壁補修工事終了

Ⅱ 令和7年度小禄南公民館事業目次

1 学習風景（写真）	4 3
2 成人一般対象事業	
〔1〕 市民講座	
◇戦後80年～語り受け継ぐ沖縄戦～	4 4
◇笑顔で脳トレ！～基礎から学ぶ健康マージャン～（全2回）	4 5
◇小禄の歴史と民俗 戦後80周年記念事業	
①小禄地域における行事食・儀礼食の変容	4 6
②はじめて作る行事食（調理実習）	4 7
③ウルク今昔 小禄村合併70周年	4 8
◇あんやたん！～意外と知らない琉球・沖縄の歴史～	4 9
◇手話を楽しく学ぼう（全3回）	5 0
〔2〕 成人講座	
◇那覇を彩る染織り～小禄クンジー～	5 1
◇フレイル予防でハッピーライフ！	5 2
3 高齢者対象事業	
〔1〕 高齢者学級	
◇スマホアドバイザーが教える「シニアスマホ入門」（ 아이폰編）	5 3
◇シニアスマホ講座（アンドロイド編）全3回	5 4
◇80代のスマホ入門（アンドロイド編）全2回	5 5
◇シニアチャレンジ講座 はじめてのヒップホップダンス（全4回）	5 6
4 青少年対象事業	
〔1〕 少年教室	
◇夏休み南寺子屋 ～ わくわくサマースクール7つの扉！～	
①キッズヨガ	5 7
②お金の話	5 8
③絵画教室	5 9
④書道教室	6 0
⑤ニュースポーツ	6 1
⑥SDGs 教室	6 2
〔2〕 青年講座	
◇フラダンス&ハワイアンキルト	6 3
〔3〕 親子ふれあい教室	
◇私たちの文化～親子で染織り “小禄クンジー” ～	6 4
5 家庭教育事業	
〔1〕 家庭教育学級	
◇ちょっと個性が強い子の気になる行動～栄養療法で始める我が子の応援法～	6 5
◇こどもの「ココロ」と「カラダ」を整える大人の教室	6 6

〔2〕 乳幼児学級

◇すこやか子育て応援教室	67
--------------	----

6 その他の事業

〔1〕 地域連携事業

◇戦後80年～語り受け継ぐ沖縄戦～（平和教育/金城中学校）	68
◇小禄南公民館へ行こう！	69
◇もちつき in 小禄南公民館まつり	70
◇フードドライブ+（プラス）	71
◇おもちゃ病院 in 小禄南公民館	72

〔2〕 うるく地域づくり連絡協議会

◇地域学習会「絵本であそぼう」	73
◇親睦グラウンドゴルフ	73
◇創立30周年記念 小禄地区市民大運動会	74
◇第30回うるく村あしび	74

7 公民館まつり

◇第41回小禄南公民館まつり	75
----------------	----

1 学習風景



高齢者学級
「はじめてのヒップホップダンス」



少年教室
「夏休み南寺子屋」



市民講座
「手話を楽しく学ぼう」



乳幼児学級
「すこやか子育て応援教室」



親子ふれあい教室
「親子で染織り“小緑クンジー”」



青年講座
「フラダンス&ハワイアンキルト」

2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		戦後80年～語り受け継ぐ沖縄戦～								
事業概要		戦後80年の節目を迎える今年、沖縄戦を体験した語り部が減少していく中、沖縄戦を語り受け繋いでいくことが重要な課題となっている。「沖縄県平和祈念資料館」発足にも携わり、平和学習として講話を行ってきた講師を招き、沖縄戦の史実を聞き沖縄戦の歴史を振り返り継承していくことが「平和を希求する想い」や「世界の恒久平和」に繋がることを共有する。								
現状・課題		戦争体験者の高齢化で沖縄戦を語り継ぐ語り部が減少し「戦争の記憶を継承する担い手の世代交代」が課題となっている。 世界ではロシア・ウクライナ戦争やガザ紛争等、武力衝突が起きている現実があり、この戦後80年の視点から沖縄戦の歴史を振り返り、事実を学ぶことで平和について新たな知見を得ることができる。								
事業目的 めざす姿		戦争体験のない多世代の市民が、自分のこととして実感できるような沖縄戦を学ぶ姿勢を繋いでいく。 住民の4人に1人が犠牲になり県民の約20万人が犠牲になった凄惨な沖縄戦の現実を風化させないため、一人一人が沖縄から世界に目を向け世界の恒久平和について考え、今自分に何ができるかを考え活動できるような実践意欲を持てる市民の育成を図る。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：30人 申込：31人（うち受講決定数31人） 参加延べ人数：30人 【申込率103%・参加率97%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月14日(土)	10:00	～	12:00	小禄南公民館ホール	30	16	14	—
内容	01	なぜ沖縄が戦場になったのか（屋嘉節の解説） 沖縄戦の始まり（ペリー提督の来琉・米軍の総力と沖縄戦の戦死者数） 沖縄戦の経過（慶良間諸島上陸・10.10空襲・鉄の暴風） 沖縄戦が終わって（小那覇舞天の「笑い」の中の生きる力と平和の意味）								
講 師	・平良 正栄（小禄鏡水自治会 会長） 元小学校長、元沖縄県平和祈念資料館委員									
【受講生の様子・感想】										
・屋嘉節を聞いた時から涙がポロポロ。久し振りに涙を流した。大人になって考える時間がなかった事を反省し「平和」とは何か「命を大切にする」とは何かをしっかりと考えたい。 ・沖縄戦の対馬丸から調印式までの流れを押さえた内容でとても分かりやすかった。「人が悪いのではない、戦争こそが悪」のメッセージが心に響いた。 ・アンケート結果（満足度）92.8%										
【成果】										
・幅広い年齢層の参加があり、沖縄戦を考える関心の高さが伺えた。 ・講演後、質疑応答で講師が答えるのではなく各々が想う意見を発表する形式を取ったが、グループワークをしたい等、活発な自発的な発言を望む意見が多くあった。 ・沖縄戦の継承は慰霊の日だけに留まらず、今後継承の形を皆で考えていきたいという受講者の意識変容が見られた。										





2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		笑顔で脳トレ！～基礎から学ぶ健康マージャン～（全2回）								
事業概要		脳トレ効果が期待され、フレイル予防や地域コミュニティの再構築のための頭脳ゲームとして、シニア世代をはじめ全ての年齢層に話題の健康マージャン。初めて牌をさわる人を中心に、基本的な麻雀ルールの基礎から、4人で卓を囲んでの実戦形式のゲームまでを学ぶ。								
現状・課題		公民館利用者の学習ニーズとして、認知症予防、フレイル予防に関する関心が高い。なかでも「健康マージャン」の要望が多く、講座をきっかけにサークルへの移行も視野に入れる。								
事業目的 めざす姿		健康マージャンは「お金を賭けない・煙草を吸わない・お酒を飲まない」を合言葉に複数人でゲームを行うため、生活の質の向上や脳トレ効果が期待され自身の健康に関心を持ち健康で心豊かな明るい生活を目指すことができる。 また、脳の活性化を促し他者とのコミュニケーションを図ることで地域コミュニティの再構築が期待され、市民が生涯を通じて心身ともに健康で心豊かな明るい生活が送れるようになる。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の18歳以上の人								
募集人数等		定員：24人 申込：53人（うち受講決定数32人） 参加延べ人数：58人 【申込率221%・参加率91%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月18日(土)	9:30	～	12:00	小禄南公民館ホール	29	8	21	—
	02	10月25日(土)	9:30	～	12:00	小禄南公民館ホール	29	8	21	—
内容	01	麻雀の楽しみ方を知る 基本的な麻雀のルールや初級の役の作り方を学ぶ								
	02	卓を囲んで麻雀牌を積む 麻雀牌を使い、4人で実戦形式でゲームを行う								
講 師		前花正樹（沖縄県健康マージャン連盟会長） 前花 愛（沖縄県健康マージャン連盟広報委員長）								
【受講生の様子・感想】										
【受講者の感想】										
・講師が丁寧な説明で気配りも良かった。初参加でも心強かった。										
・麻雀に対するイメージがとても良くなりました。地域の公民館で知識を深めたり初めての事を経験させて頂いたり、公民館は地域住民にとって大切なものだと思います。										
・アンケート結果（満足度）96.5%										
【成果】										
・シニア層を中心に脳トレ効果を期待しての講座企画で、初心者が無理なく理解できる内容で満足度が高かった。										
・4人で行うゲーム方式で相手の牌を待ったり互いに捨て牌を教え合う等、自然と笑顔と会話の中で交流が生まれた。										
・続編を望む声が多くサークル希望の意見もあり他者コミュニケーションから地域コミュニケーションへの拡がりがあり、心身ともに健康で心豊かな社会生活を育むという講座の目指す姿に近づいた。										





2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		小禄の歴史と民俗 戦後80周年記念事業 ①小禄地域における行事食・儀礼食の変容								
事業概要		小禄の歴史は、先史時代の集落跡にその起源をたどることができる。琉球王国時代には「小禄間切」として行政区画が誕生した。戦後は米軍基地の占領により地域に大きな変革が訪れ、1954年には那覇市と合併したことで小禄村は廃止された。その後、戦後復興や基地返還に伴う土地区画整理事業が進められる中で、地域は那覇市のベッドタウンとして大きく発展を遂げた。戦後80周年という節目を迎え、改めて「小禄の歴史と民俗」を振り返り、見つめ直す機会を提供する。								
現状・課題		1945年以前に生まれた「戦前・戦中世代」の県内人口は、2024年末時点で約11万人、全人口のおよそ7.8%となった。この状況から、戦争の記憶の継承や教訓を次の世代につなげていくことが差し迫った課題である。（引用2025年7月7日「沖縄 NEWS WEB」NHK放送局） また、沖縄の伝統食を保存継承するための問題点については、①「伝統的な料理を作れない県民が増えている」が 58.6 %、②「年中行事の行事食を自分で作らず買ってすませる」が 48.4 %、③「年中行事への関心も薄れてきている」が 46.6 %（引用「平成29年度 沖縄食文化実態調査」沖縄県）								
事業目的 めざす姿		戦後、小禄地域が歩んできた歴史や育んできた食文化、生活様式に改めて目を向けるとともに、戦争の記憶や復興の歴史を次世代へ伝え、共有することを目的とする。また、専門家による調査事例を基に、小禄地域における食文化や生活様式が戦後どのように変化してきたのかを紐解き、さらに年中行事の行事食がどのように継承されてきたのかについて探求する。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：30人 申込：16人（うち受講決定数16人） 参加延べ人数：16人 【申込率53%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	11月22日(土)	19:00	～	21:00	小禄南公民館 視聴覚室	16	5	11	-
内容	01	戦後の小禄地域について 小禄の年中行事食と儀礼食・近年の食文化の変容								
講 師	波平 エリ子（沖縄国際大学大学院 非常勤講師）									
【受講生の様子・感想】 行事や儀礼にまつわる食文化を担う人々は必要不可欠です。小禄の文化が途絶えることのないよう、このような講座をぜひ今後も継続していただきたいと思います。 講話だけでなく、終戦当時の鍋や軍から払い下げられた品々などを実際に用意していただいたことで、非常に分かりやすく、興味深い内容でした。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】 アンケート結果からは、伝統的な食文化を守り継ぐ意識の変容が見られた。質疑応答の場では、参加者を巻き込んだ活発な意見交換が行われ、小禄地域の食文化を継承する担い手の必要性が共有された。また、近年の小禄地域の食文化の変容をテーマとした講話の際、80代の受講生が終戦当時の思い出を語り、若い受講生へと貴重な歴史や経験を語り継ぐ場となった。この世代間交流を通じて、食文化の理解と継承の重要性が改めて認識される意義深い講話となった。										





2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		小禄の歴史と民俗 戦後80周年記念事業 ②はじめて作る行事食（調理実習）								
事業概要		小禄の歴史は、先史時代の集落跡にその起源をたどることができる。琉球王国時代には「小禄間切」として行政区画が誕生した。戦後は米軍基地の占領により地域に大きな変革が訪れ、1954年には那覇市と合併したことで小禄村は廃止された。その後、戦後復興や基地返還に伴う土地区画整理事業が進められる中で、地域は那覇市のベッドタウンとして大きく発展を遂げた。戦後80周年という節目を迎え、改めて「小禄の歴史と民俗」を振り返り、見つめ直す機会を提供する。								
現状・課題		1945年以前に生まれた「戦前・戦中世代」の県内人口は、2024年末時点で約11万人、全人口のおよそ7.8%となった。この状況から、戦争の記憶の継承や教訓を次の世代につなげていくことが差し迫った課題である。（引用2025年7月7日「沖縄 NEWS WEB」NHK放送局） また、沖縄の伝統食を保存継承するための問題点については、①「伝統的な料理を作れない県民が増えている」が 58.6 %、②「年中行事の行事食を自分で作らず買ってすませる」が 48.4 %、③「年中行事への関心も薄れてきている」が 46.6 %（引用「平成29年度 沖縄食文化実態調査」沖縄県）								
事業目的 めざす姿		戦後、小禄地域が歩んできた歴史や育んできた食文化、生活様式に改めて目を向けるとともに、戦争の記憶や復興の歴史を次世代へ伝え、共有することを目的とする。また、専門家による調査事例を基に、小禄地域における食文化や生活様式が戦後どのように変化してきたのかを紐解き、さらに年中行事の行事食がどのように継承されてきたのかについて探求する。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：12人 申込：12人（うち受講決定数12人） 参加延べ人数：12人 【申込率100%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	11月24日(月)	10:00	～	14:00	小禄南公民館 実習室	12	2	10	-
内容	01	中身汁・スンシー入りクーブイリチー・チンピン								
講 師		波平 エリ子（沖縄国際大学大学院 非常勤講師） 助手1人								
【受講生の様子・感想】 ・とても楽しかった。他のグループの方とも交流出来たらよかったと思うので、次回は「ゆんたく」の時間を設けていただきたい。 ・沖縄料理のスンシー入りクーブイリチーは、正月に作ってみようと思います。また、チンピンは初めて作ったのですが、とても美味しかったので、これからは「おやつ」として取り入れたい。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】 調理実習では、4つのグループに分かれ、同じ材料と同じレシピを用いて調理を行った。調理後には、各グループが完成した料理をお互いに試食し合い、それぞれの家庭ごとの味の違いを実感するとともに、行事食の多様性を再認識する貴重な機会となった。さらに、アンケート結果では、「作れる料理を改めて確認できた」「行事食への理解を深めることができた」などの意見が寄せられ、伝統的な食文化を守り継いでいこうとする意識の変容が見られた。										







2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		小禄の歴史と民俗 戦後80周年記念事業 ③ウルク今昔 小禄村合併70周年								
事業概要		小禄の歴史は、先史時代の集落跡にその起源をたどることができる。琉球王国時代には「小禄間切」として行政区画が誕生した。戦後は米軍基地の占領により地域に大きな変革が訪れ、1954年には那覇市と合併したことで小禄村は廃止された。その後、戦後復興や基地返還に伴う土地区画整理事業が進められる中で、地域は那覇市のベッドタウンとして大きく発展を遂げた。戦後80周年という節目を迎え、改めて「小禄の歴史と民俗」を振り返り、見つめ直す機会を提供する。								
現状・課題		1945年以前に生まれた「戦前・戦中世代」の県内人口は、2024年末時点で約11万人、全人口のおよそ7.8%となった。この状況から、戦争の記憶の継承や教訓を次の世代につなげていくことが差し迫った課題である。（引用2025年7月7日「沖縄 NEWS WEB」NHK放送局） また、沖縄の伝統食を保存継承するための問題点については、①「伝統的な料理を作れない県民が増えている」が 58.6 %、②「年中行事の行事食を自分で作らず買ってすませる」が 48.4 %、③「年中行事への関心も薄れてきている」が 46.6 %（引用「平成29年度 沖縄食文化実態調査」沖縄県）								
事業目的 めざす姿		戦後、小禄地域が歩んできた歴史や育んできた食文化、生活様式に改めて目を向けるとともに、戦争の記憶や復興の歴史を次世代へ伝え、共有することを目的とする。また、専門家による調査事例を基に、小禄地域における食文化や生活様式が戦後どのように変化してきたのかを紐解き、さらに年中行事の行事食がどのように継承されてきたのかについて探求する。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：30人 申込：29人（うち受講決定数29人） 参加延べ人数：28人 【申込率97%・参加率97%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	11月30日(日)	10:00	～	12:00	小禄南公民館 視聴覚室	28	14	14	-
内容	01	尚家と小禄浄土・小禄間切と戦前の小禄・「新部落」と「鏡原町」								
講 師		伊集 守道（那覇市歴史博物館）								
【受講生の様子・感想】										
・鏡原町の埋立ての経過について知ること、自分が育った地域を改めて見つめ直す良い機会となりました。 ・資料内容や写真の添付が素晴らしく、小禄地区の昔の歴史について少し理解を深めることができました。 ・アンケート結果（満足度）95%										
【成果】										
本講座は、戦後における小禄地域の歩み、戦争の記憶、そして復興の歴史を次世代へ伝え、共有することを目的として開催した。 小禄地域を研究する歴史博物館の学芸員による講話では、次世代への継承にふさわしい調査事例が発表された。また、講師が当時の学校について語った際には、80代の元教師である男性が、高良小学校および小禄中学校の成立ちについて貴重なエピソードを披露した。本講座は、小禄地域の戦後復興の歴史や戦争の記憶を若い世代へ語り継ぐ貴重な機会となった。 さらに、アンケート結果からは、「先輩方の生の声を直接聞けて良かった」といった意見が寄せられ、異世代の受講者の皆様にとって、学びと交流の場となったことがうかがえる。										







2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		あんやたん！～意外と知らない琉球・沖縄の歴史～								
事業概要		琉球王国は尚巴志が三山を統一後、アジア諸国との中継貿易で莫大な利益を挙げた大交易時代から、「おもろそうし」の編纂や首里城の整備構築と琉球文化が開花した最盛期、廃藩置県(琉球処分)で終焉を迎えるまでなど、約450年間にわたり存続した。 また、日本で唯一地上戦があった第二次世界大戦から戦後80年を経て、現代に至るまでの沖縄の歴史を主軸に、文化・芸能・生活の変遷を分かりやすく学ぶ機会を提供する。								
現状・課題		県民意識調査において琉球・沖縄の独自の背景を含めた歴史を学びたいという意向を持つ人が多いが、学ぶ機会が少ない。								
事業目的 めざす姿		郷土の歴史と文化が継承され、人間性豊かな人材の育成を目指していく。 大交易時代からの進取の精神と国際性豊かな人間性を育むと同時に、過去の歴史的苦難から復興してきた、たくましい生命力と英知、たゆまない努力が市民生活の基盤となっていくことを目標とする。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：30人 申込：89人（うち受講決定数89人） 参加延べ人数：70人 【申込率297%・参加率79%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	1月18日(日)	10:00	～	12:00	小禄南公民館ホール	70	30	40	—
内容	01	琉球国王の人物像やエピソード 国王の恋物語の琉歌を紐解く 農民や庶民も多く詠んでいた琉歌 たくましく生きてきた「うちなーんちゅ」								
講 師	赤瓦ちょーびん（歴史コーディネーター/ラジオパーソナリティー）									
【受講生の様子・感想】 ・沖縄に移住して4年目。沖縄の歴史文化に更に興味が深まりました。講師の話は分かりやすく「あんやたん！」がいっぱいでした。 ・母語を大事にすることを改めて想いました。学校教育の中でも活かされているのでしょうか。琉歌にも興味が湧きました。 ・アンケート結果（満足度）95.3%										
【成果】 ・「琉球・沖縄の独自の背景を含めた歴史を学びたいという意向を持つ人が多いが学ぶ機会が少ない」というニーズから企画開催し、受講後のアンケートの大半は続編を望む声が多く「郷土の歴史・文化を続けて学びたい」という声を確認することができた。 ・琉球歴史を軸として琉歌や三線に興味を持った人も多くあり、那覇市の目指す「郷土の歴史と文化が継承され人間性豊かな人材の育成を目指していく」という中での多岐にわたる意識変容が見られた。										





2 成人一般対象事業

〔1〕 市民講座

講座名 タイトル		手話を楽しく学ぼう（全3回）								
事業概要		「手から始まるコミュニケーション」をテーマに、ろう講師と聴講師の2名をお招きし、手話を学ぶ講座。「手のひら」から広がるつながりの可能性を「あなたの手と目と心」で体験する。								
現状・課題		聴覚障害者のコミュニケーションの手段としては、手話が最も有効であるとされており、続いて指文字、読話、補聴器の順に有効性が高いとされている。 (引用)国立情報学研究所 平成6年「聴覚障害者のコミュニケーション手段の使用に関する実態調査」 また「聴覚障害のある当事者からのメッセージ」（知ってほしいこと）として、寄せられた意見。①聴覚障害はコミュニケーションが困難な点につらさがある。87.2%②音声での情報が理解できず、アナウンスされても分からない。83% (引用)内閣府 平成17年「障害のある当事者からのメッセージ」								
事業目的 めざす姿		手話の基礎知識を学ぶこと。 「聴覚障がい者」とのコミュニケーション方法を学ぶこと。 「聴覚障がい」を理解するために「聴覚障がい者」と接する機会を提供する。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：15人 申込：44人（うち受講決定数15人） 参加延べ人数：38人 【申込率293%・参加率84%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	2月19日(木)	10:00	～	12:00	小禄南公民館 視聴覚室	14	2	12	－
	02	2月26日(木)	10:00	～	12:00	小禄南公民館 視聴覚室	13	1	12	－
	03	3月5日(木)	10:00	～	12:00	小禄南公民館 視聴覚室	11	2	9	－
内容	01	手話の基礎知識を学ぼう								
	02	手話で自己紹介、挨拶をしよう								
	03	数字や時間を指文字で覚えよう								
講 師		下地盛栄（沖縄県聴覚障害者協会 ろう講師） 砂川まゆみ（沖縄県手話通訳問題研究会 聴講師）								
【受講生の様子・感想】										
・ろう講師と聴講師の2人態勢で進められた講座は非常にわかりやすく、良かったです。ぜひ、今後もこのような形式の講座を継続していただきたい。 ・参加人数が適切で良かったです。また、先生の人柄が素晴らしく、非常に好感を持ってました。 ・アンケート結果（満足度）90%										
【成果】										
本講座は、手話を学ぶことを通じて「聴覚障がい」に対する理解を深めることを目的として実施した。 アンケート結果によれば、参加者は手話の体験を通じて聴覚障がい者への理解を深めるとともに、日常生活において障がい者へ配慮することの重要性に気付くなど、社会的視野を広げる成果が見られた。また、学んだ手話を今後も活用しながら学習を継続したいという意欲的な声が多く、参加者の意識の変容がうかがえる。										



2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル		那覇を彩る染織り～小禄クンジー～								
事業概要		小禄クンジーの歴史を通し地域文化を学び、研究会の作業所で実際に藍染木綿糸を使っての機織りを体験して小禄クンジーのコースターを作成する。								
現状・課題		儀間真常によってもたらされた「小禄クンジー」は琉球王国時代から戦前まで、小禄地域（旧小禄村）の代表的な木綿織物であり主要産物であった。沖縄戦以降その継承が断たれ、特に1985年以降は復活の機運が高まっていたが復活することができなかった。2006年度小禄南公民館の成人講座「発見！小禄の染織文化・小禄クンジー講座」が開催され、終了後受講生により復活の機運から21年を経て「小禄クンジー研究会」が発足。会員の努力により技術が継承され、今年は沖展の織物部門で入選、現在に至っている。那覇市の理念である「文化が保存され継承されるまちづくり」を目標に、今後も市民への理解と普及を図る必要がある。								
事業目的 めざす姿		地域の文化を継承し、生涯学習のきっかけや人材育成につなげ、地域の人材が地域で活躍できる機会を設け、豊かな学びと文化が薫る誇りある街をめざす。								
対象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：8人 申込：30人（うち受講決定数10人） 参加延べ人数：10人 【申込率375%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	8月20日(水)	13:00	～	16:00	うるく紺地研究会作業所	10	2	8	—
内容	01	地域の歴史とうるくクンジーの起源（儀間真常のもたらした産業の功績） うるくクンジーができるまでの工程（綿花の栽培・藍の重ね染め・図柄） 戦前・戦後を通して現在に至るまでのうるくクンジーの軌跡と継承 うるくクンジー研究会による調査・普及啓発活動 機織り機でうるくクンジーを織りコースター作りを体験								
講師		上原 八重子（うるく紺地研究会会員）他5名								
【受講生の様子・感想】		・1つ1つの作業と手間と途方もない世界観に圧倒された。研究会の皆さんの努力と苦労を想像し復活された気持ちの強さを感じた。 ・歴史もよく知らないまま住んでいたけど知ったらますます小禄が好きになりました。沖縄の伝統をもっと知りたいです。 ・アンケート結果（満足度）100%								
【成果】		・定員の3倍の応募があり、年齢層も高校生から70代までと幅広い年齢層が本講座に対する興味があることが分かった。 ・うるくクンジー研究会員との質疑応答の時間も活発な意見交換があり、うるくクンジーの継承に参加したいという意見も多く「地域の文化を継承し地域の人材が活躍できる機会を提供する」という本講座の目指す姿に近づいた。								





2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル		フレイル予防でハッピーライフ！								
事業概要		年齢を重ね心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながり）が低下した状態をフレイルと呼ぶ。フレイルを予防するためのポイントは栄養（食/口腔機能）・運動・社会参加の3つ。この3つのポイントをコンビニ活用法や1日全部で30分トレーニング、生活周りのAEDを探すゲームやAED操作の体験を行い、要介護状態に陥る前の心身の活力対策について理解を深め健康長寿や社会参加をめざす。								
現状・課題		かつて長寿県として知られた沖縄は、現在男性の平均寿命が低下し全国平均を下回った順位になっている。主な要因として食生活の変化による生活習慣病の増加、近距離でも車を使う習慣が背景にある運動不足、生活習慣病のリスクを高めるアルコール摂取量、口腔等の健康問題が課題としてあり心身ともに充実した生活を送れる健康寿命について理解し実践することが急務の課題となっている。								
事業目的 めざす姿		健康寿命を考える上で大切な3つの柱【栄養（食・口腔ケア）・運動・社会参加】を理学療法士・歯科医師・救急救命士の観点から分かりやすく説明し、日々の生活の中で実践することでフレイル予防を理解し、健康寿命を伸ばし健康的な日常生活ができることを目的とする。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：20人 申込：12人（うち受講決定数12人） 参加延べ人数：31人 【申込率60%・参加率86%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	12月13日(土)	10:00	～	12:00	小禄南公民館視聴覚室	12	2	10	－
	02	12月20日(土)	10:00	～	12:00	小禄南公民館視聴覚室	12	2	10	－
	03	12月23日(火)	10:00	～	12:00	小禄南公民館視聴覚室	7	1	6	－
内容	01	運動について（ロコモチェック・1日30分トレーニング）								
	02	栄養について（食の選び方・口腔ケア・コンビニ活用法）								
	03	社会参加について（応急手当講習・AEDを探そう）								
講 師		①安田知子、神谷之美（（公財）沖縄県理学療法士協会） ②嘉手納一彦（那覇保健所健康増進課） ③那覇市消防局（救急課）								
【受講生の様子・感想】										
・AED、胸部圧迫の体験は初めてでしたが人助けに率先して協力する想いが生まれた。質疑応答が活発で良かった。 ・講師の方の経験を交えたお話は、とても分かりやすく楽しく学びました。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
・参加者満足度100%であり「要介護状態に陥る前の心身の活力対策について理解を深め、市民の健康長寿、社会参加をめざす」という事業の目指す姿に近づいた。 ・「自分の行っている運動や食事が再確認できて良かった」「自分の筋力トレーニングの値を知りたい」等、具体的な自己管理についての意識変容が見られた。										





3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

講座名 タイトル		スマホアドバイザーが教える「シニアスマホ入門」 （アイフォン編）								
事業概要		本講座は、初めてスマホに触れる受講生向けの学習プログラムである。単に、スマホの操作方法を学ぶだけでなく、楽しさと利便性を体験できる内容となっている。また、本講座は「誰一人取り残さないデジタル社会」を実現するために、本市が主導する官民連携の取組みでもある。								
現状・課題		内閣府が令和5年に実施した「情報通信機器の利活用に関する世論調査」によると、スマホについて「どのように使うのか分からない」と感じている高齢者は51%に上ることが分かった。また、「必要があれば家族に任せればよい」と考えている高齢者は37%、「自分の生活には必要ない」と感じている高齢者は36%という結果が示された。								
事業目的 めざす姿		本講座は、スマホの基本操作から日常生活での具体的な活用方法までを体験を通じて学ぶことを目的としている。さらに、スマホの楽しさや便利さを実際に体感することで、その魅力を深く理解できる機会を提供する。加えて、Google音声検索やGoogleレンズを使った情報収集の方法を実際に試すことで、スマホの高度な活用方法について理解を深める学びを提供する。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の60歳以上の人								
募集人数等		定員：20人 申込：18人（うち受講決定数18人） 参加延べ人数：16人 【申込率90%・参加率89%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	5月27日(火)	10:00	～	12:00	小祿南公民館 ホール	16	6	10	-
内容	01	スマホの「楽しさ」「便利さ」を体験 (お出かけ編) 地図とカメラを活用してみよう！ (調べもの編) Googleアプリを活用しよう！ ※スマホは貸出機を使用								
講 師	ソフトバンク株式会社 スマホアドバイザー(1人) サポートスタッフ (3人)									
【受講生の様子・感想】										
・スマホを購入してから2年以上経ちましたが、まったく使いこなせず、知識ゼロの状態でした。私のような初心者に向けた講座をぜひ今後も続けていただきたいです。 ・スマートフォンの便利さや素晴らしさに気づき、今まで知らなかったことでどれほど損をしていたか実感しています。これからはもっと積極的に活用して、新しい可能性を広げたいと思います。 ・アンケート結果（満足度）85.7%										
【成果】										
本講座は、初めてスマホに触れる高齢者を対象にしたプログラムである。単に学びを提供するだけでなく、実践的な操作体験やスマホへの親しみやすさに重点を置いた講座内容が、参加者から高い評価を受けた。この講座をきっかけに、受講生は、情報収集やコミュニケーションの効率化など、スマホがもたらす様々な利便性に気づき、日常生活で積極的に活用する意識の変容が見られた。今後、高齢者による新しい技術への理解と活用がさらに進むことで、デジタルデバイドの解消につながることが期待される。										





3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

講座名 タイトル		シニアスマホ講座（アンドロイド編）全3回								
事業概要		本講座は、高齢者がスマホを活用して、生きがいを見つけ、仲間との交流を深めることを目的としている。「生活・趣味アプリ」を体験することで日々の生活を豊かにし、またLINEやテレビ電話といったコミュニケーションツールを学ぶことで、仲間作りを支援する。本講座を通じて、高齢者がデジタルデバイドを解消し、スマホをより便利に使いこなすための学習機会を提供する。								
現状・課題		内閣府が令和5年に実施した「情報通信機器の利活用に関する世論調査」によると、スマホについて「どのように使うのか分からない」と感じている高齢者は51%に上ることが分かった。また、「必要があれば家族に任せればよい」と考えている高齢者は37%、「自分の生活には必要ない」と感じている高齢者は36%という結果が示された。								
事業目的 めざす姿		本講座では、スマホの基本操作から日常生活での具体的な活用方法までを習得する。また、スマホを利用して、コミュニケーションをより円滑に行う方法について学習する。さらに、便利なアプリの使い方を理解し、実生活や趣味に役立てるスキルを身につけることを目的とする。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の60代～70代の人								
募集人数等		定員：20人 申込：37人（うち受講決定数20人） 参加延べ人数：52人 【申込率185%・参加率87%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月16日(月)	13:30	～	16:00	小禄南公民館 ホール	20	5	15	－
	02	6月17日(火)	13:30	～	16:00	小禄南公民館 ホール	18	5	13	－
	03	6月19日(木)	13:30	～	16:00	小禄南公民館 ホール	14	5	9	－
内容	01	スマホの基本操作を学ぶ。生活・趣味に役立つアプリ体験								
	02	LINE・ビデオ通話でトーク・グループ作成								
	03	文字入力・電話・Googleマップ・那覇市の電子図書館 ※スマホは貸出機を使用								
講 師		房前 三男（那覇市シルバー人材センター） 助手3名								
【受講生の様子・感想】 ・今回初めて受講し、スマホの基本操作やその便利さを学ぶ貴重な機会となりました。この経験を今後の日常生活に役立てたいと考えています。 ・スマホの操作に不慣れなため、基本的な部分から丁寧に学ぶ機会が欲しいと感じています。 ・アンケート結果（満足度）78%										
【成果】 本講座は、便利なアプリの活用を通じて、受講生が実生活や趣味に役立つスキルを習得することを目的としていた。 受講生が自分のペースで無理なく学習を進められるよう、3名の助手が個々の習熟度やニーズに合わせた丁寧なサポートを実施した。その結果、受講生は学習に集中して取り組むことができ、講師や助手に対し積極的に質問を重ねながら理解を深めていた。さらに、デジタル技術の活用に対して前向きな姿勢が見られ、受講生が意欲的に学習を進める様子が見えた。										





3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

講座名 タイトル		80代のスマホ入門（アンドロイド編）全2回								
事業概要		本講座は、昨年度実施した「シニアスマホ講座」のアンケート結果を基に、80歳以上の高齢者のニーズに特化し、以下の2つの重点分野で構成された学習プログラムである。第一に「生活・趣味アプリ」の体験を通じて、生きがいづくりを促進すること。第二に、LINEやテレビ電話などのコミュニケーションツールを学ぶことで、新たな仲間作りの支援すること。本講座を通して、高齢者がデジタルデバイドを解消し、スマホを使いこなすための学習機会を提供する。								
現状・課題		内閣府が令和5年に実施した「情報通信機器の利活用に関する世論調査」によると、スマホについて「どのように使うのか分からない」と感じている高齢者は51%に上ることが分かった。また、「必要があれば家族に任せればよい」と考えている高齢者は37%、「自分の生活には必要ない」と感じている高齢者は36%という結果が示された。								
事業目的 めざす姿		本講座では、スマホの基本操作から日常生活での具体的な活用方法までを習得する。また、スマホを利用して、コミュニケーションをより円滑に行う方法について学習する。さらに、便利なアプリの使い方を理解し、実生活や趣味に役立てるスキルを身につけることを目的とする。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の80歳以上の人								
募集人数等		定員：20人 申込：15人（うち受講決定数15人） 参加延べ人数：23人 【申込率75%・参加率77%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月24日(火)	13:30	～	16:00	小祿南公民館 ホール	13	5	8	-
	02	6月26日(木)	13:30	～	16:00	小祿南公民館 ホール	10	5	5	-
内容	01	スマホの基本操作を学ぶ。生活・趣味に役立つアプリ体験								
	02	LINE・ビデオ通話でトーク・グループ作成 ※スマホは貸出機あり								
講 師		房前 三男（那覇市シルバー人材センター） 助手3名								
【受講生の様子・感想】 ・講師の熱意あるご指導と助手の方々の親切なサポートに、心より感謝申し上げます。また、次回の機会を楽しみにしています。 ・受講中は理解できていると思うものの、年齢の影響もあるのか、時間が経過すると忘れてしまう。 ・アンケート結果（満足度）89%										
【成果】 前年度実施した「シニアスマホ講座」では、講座内容の理解度において、60代と80代の参加者間で大きな差があることが判明した。その結果を踏まえ、今年度は80歳以上限定の学習プログラムを実施したところ、理解度の向上が確認された。一方で、今年度受講された高齢者の反応やアンケート結果を通じて、講座の進行方法や学習プログラムには改善すべき点があることが明らかになった。これらの課題を精査し、次年度の講座に活かしたい。										







3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

講座名 タイトル		シニアチャレンジ講座 はじめてのヒップホップダンス（全4回）								
事業概要		本講座は、高齢者の生きがい活動を支援することを目的に企画した学習プログラムである。その一環として、ヒップホップダンスの体験を通じて、楽しみながら新たな運動習慣を始めるきっかけを提供する。さらに、地域の高齢者が交流を広げ、活躍の場をすることで、社会とのつながりを深めることを目指す。この講座を通じて、高齢者がより豊かで充実した人生を送るための学びの場と挑戦の機会を提供する。								
現状・課題		厚生労働省の「平成28年国民健康・栄養調査」によると、年齢・性別ごとの「運動をしていない割合」を比較すると、最も高いのは65～74歳の男性で41.3%、次いで75歳以上の女性が41.2%という結果が報告された。 また、スポーツ庁「平成29年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査」では、運動をしない理由について、まず、60代の場合、「年を取ったから」「仕事や家事が忙しい」といった理由が多く挙げられた。また、70代では「年を取ったから」「特に理由はない」が主な理由となっていた。これらの傾向は、高齢者の運動に対する意識や環境に課題があり、適切な支援や普及活動の重要性を浮き彫りにした。								
事業目的 めざす姿		本講座では、健康づくりや身体機能の向上を目指し、高齢者がヒップホップダンスを通じて新たな運動習慣を始めるきっかけを提供する。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の60歳以上の人								
募集人数等		定員：20人 申込：30人（うち受講決定数24人） 参加延べ人数：72人 【申込率150%・参加率75%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	12月15日(月)	10:00	～	12:00	小禄南公民館 ホール	23	0	23	－
	02	12月16日(火)	10:00	～	12:00	小禄南公民館 ホール	17	0	17	－
	03	12月18日(木)	10:00	～	12:00	小禄南公民館 ホール	15	0	15	－
	04	12月20日(土)	16:00	～	18:00	小禄南公民館 ホール	17	0	17	－
内容	01～03	ヒップホップダンスの練習・ストレッチ								
	04	ヒップホップダンス合同発表会（小禄南公民館OMKダンスサークルと合同）								
講 師	具志 風南子（小禄南公民館OMKダンスサークル 講師） 具志 則子（ウェルカルチャースクール 講師）									
【受講生の様子・感想】										
・全4回の講座で発表会まで行うことができたのは、先生方の素晴らしいご指導のおかげです。本当にありがとうございました。 ・若者向けの運動だと思いつつも興味を持って参加しました。若い先生や新しい音楽に触れ、とても刺激を受け、気持ちが若返ったように感じました。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
本講座は、「高齢者がヒップホップダンスを通じて新たな運動習慣を始めるきっかけを提供する」ことを目的として開催した。講座終了後には、受講生のうち数名が自主的にサークル活動を立ち上げ、継続的な活動へと発展する成果が得られた。 さらに、公民館という地域の拠点で仲間と集うことにより、孤立しがちな高齢者の交流が深まり、人と接する機会が増える結果となった。それに伴い、社会とのつながりを持つきっかけを提供するという成果も得られた。										





4 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

講座名 タイトル		夏休み南寺子屋 ～ わくわくサマースクール7つの扉！～ ①キッズヨガ								
事業概要		本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムである。受講生は、7つの学習プログラムから自身の興味に応じたものを選び、自分だけの夏休み体験スケジュールを作成することができる。また、受講生が異世代や地域との交流を通して、新しい知識を得るだけでなく、好奇心を深め、成長する機会を提供する。								
現状・課題		地域のつながりが希薄化し、少子化の影響により青少年同士が関わり合う機会が減少している。このような状況下において、地域コミュニティで育つ子どもたちが学び合う機会も少なくなっており、「地域での居場所づくり」が重要な課題となっている。（引用：内閣府「こどもの居場所づくりに関する調査研究」） また、子どもの夏休みの過ごし方に関する課題としては、「子どもの生活リズムが狂ってしまうこと」が最も多く挙げられている。このような課題への関心が高まる中、夏休み期間中に子どもに金融学習を体験させたいと考える親が増えている。その背景には、新NISA制度や新紙幣発行といった金融制度の変化があり、金融リテラシーの重要性への認識が広がっている。（引用：ICT教育ニュース「夏休みの家庭での過ごし方に関する意識調査」）								
事業目的 めざす姿		本講座は、小学生を対象に、「集団学習」「異世代交流」そして「小祿地域における居場所づくり」を目的とした活動である。夏休み期間中に定期的な学習機会を提供し、安定した日常生活を支援する。また、異世代間交流を通じて、小学生が集団で互いに学び合う環境を提供する。さらに、金融学習の体験活動を通じて、小学生が金融リテラシーや、実践的な知識を育むことをめざす。								
対 象		那覇市在住・在学の小学生								
募集人数等		定員：20人 申込：28人（うち受講決定数20人） 参加延べ人数：17人 【申込率140%・参加率85%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	7月24日(木)	10:00	～	12:00	小祿南公民館 ホール	17	7	10	
内容	01	ヨガ・ストレッチ（柔軟運動）・瞑想（心を整える）								
講 師	神山 美佳（ヨガインストラクター）									
【受講生の様子・感想】										
・いろいろなポーズに挑戦できて楽しかった。また、ヨガのポーズには、一つ一つ意味があることを知った。 ・体をやわらかくすることができて、とてもうれしかった。特に、ネコのポーズをもっと練習してみたい。 ・アンケート結果（満足度）59%										
【成果】										
本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムとして実施した。 参加した小学生たちは、異なる学校や学年の仲間たちと交流しながら、学びを深める有意義な時間を過ごした。また、図書館や学習スペースを活用することで、学びの場としての機能と居場所としての役割を兼ね備えた環境を提供した。本講座は、単なる学習の場に留まらず、小学生が自己成長を実感しながら交流を深め、充実した夏休みを過ごすための大きな役割を果たした。										





4 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

講座名 タイトル		夏休み南寺子屋 ～ わくわくサマースクール7つの扉！～ ②お金の話								
事業概要		本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムである。受講生は、7つの学習プログラムから自身の興味に応じたものを選び、自分だけの夏休み体験スケジュールを作成することができる。また、受講生が異世代や地域との交流を通して、新しい知識を得るだけでなく、好奇心を深め、成長する機会を提供する。								
現状・課題		地域のつながりが希薄化し、少子化の影響により青少年同士が関わり合う機会が減少している。このような状況下において、地域コミュニティで育つ子どもたちが学び合う機会も少なくなっており、「地域での居場所づくり」が重要な課題となっている。（引用：内閣府「こどもの居場所づくりに関する調査研究」） また、子どもの夏休みの過ごし方に関する課題としては、「子どもの生活リズムが狂ってしまうこと」が最も多く挙げられている。このような課題への関心が高まる中、夏休み期間中に子どもに金融学習を体験させたいと考える親が増えている。その背景には、新NISA制度や新紙幣発行といった金融制度の変化があり、金融リテラシーの重要性への認識が広がっている。（引用：ICT教育ニュース「夏休みの家庭での過ごし方に関する意識調査」）								
事業目的 めざす姿		本講座は、小学生を対象に、「集団学習」「異世代交流」そして「小祿地域における居場所づくり」を目的とした活動である。夏休み期間中に定期的な学習機会を提供し、安定した日常生活を支援する。また、異世代間交流を通じて、小学生が集団で互いに学び合う環境を提供する。さらに、金融学習の体験活動を通じて、小学生が金融リテラシーや、実践的な知識を育むことをめざす。								
対 象		那覇市在住・在学の小学生								
募集人数等		定員：20人 申込：19人（うち受講決定数19人） 参加延べ人数：17人 【申込率95%・参加率89%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	7月28日(月)	10:00	～	12:00	小祿南公民館 ホール	17	9	8	
内容	01	おこづかいから学ぶ「お金の話」・「おこづかい帳」の書き方・貯金箱を作る								
講 師		兼島 良太（金融経済教育推進機構 J-FLEC講師）								
【受講生の様子・感想】										
・貯金箱を作るのは難しかったが、出来上がったときは、とてもうれしかった。 ・銀行にお金をあずけると、お礼にちょっとだけお金がふえることを知ってびっくりしました。すごいなと思いました。 ・アンケート結果（満足度）94%										
【成果】										
本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムとして実施した。 参加した小学生たちは、異なる学校や学年の仲間たちと交流しながら、学びを深める有意義な時間を過ごした。また、図書館や学習スペースを活用することで、学びの場としての機能と居場所としての役割を兼ね備えた環境を提供した。本講座は、単なる学習の場に留まらず、小学生が自己成長を実感しながら交流を深め、充実した夏休みを過ごすための大きな役割を果たした。										





4 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

講座名 タイトル		夏休み南寺子屋 ～ わくわくサマースクール7つの扉！～ ③絵画教室								
事業概要		本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムである。受講生は、7つの学習プログラムから自身の興味に応じたものを選び、自分だけの夏休み体験スケジュールを作成することができる。また、受講生が異世代や地域との交流を通して、新しい知識を得るだけでなく、好奇心を深め、成長する機会を提供する。								
現状・課題		地域のつながりが希薄化し、少子化の影響により青少年同士が関わり合う機会が減少している。このような状況下において、地域コミュニティで育つ子どもたちが学び合う機会も少なくなっており、「地域での居場所づくり」が重要な課題となっている。（引用：内閣府「こどもの居場所づくりに関する調査研究」） また、子どもの夏休みの過ごし方に関する課題としては、「子どもの生活リズムが狂ってしまうこと」が最も多く挙げられている。このような課題への関心が高まる中、夏休み期間中に子どもに金融学習を体験させたいと考える親が増えている。その背景には、新NISA制度や新紙幣発行といった金融制度の変化があり、金融リテラシーの重要性への認識が広がっている。（引用：ICT教育ニュース「夏休みの家庭での過ごし方に関する意識調査」）								
事業目的 めざす姿		本講座は、小学生を対象に、「集団学習」「異世代交流」そして「小祿地域における居場所づくり」を目的とした活動である。夏休み期間中に定期的な学習機会を提供し、安定した日常生活を支援する。また、異世代間交流を通じて、小学生が集団で互いに学び合う環境を提供する。さらに、金融学習の体験活動を通じて、小学生が金融リテラシーや、実践的な知識を育むことをめざす。								
対 象		那覇市在住・在学の小学生								
募集人数等		定員：20人 申込：64人（うち受講決定数20人） 参加延べ人数：37人 【申込率320%・参加率93%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	7月29日(火)	10:00	～	12:00	小祿南公民館 ホール	20	7	13	
	02	8月4日(月)	10:00	～	12:00	小祿南公民館 ホール	17	5	12	
内容	01	線の引き方やスケッチの練習をする。クレヨンや絵の具の使い方を学ぶ。								
	02	簡単な風景画（水や空、動植物）の描き方を練習する。絵筆の使い方を学ぶ。								
講 師		与那嶺 健二（峰 絵画工房）								
【受講生の様子・感想】										
・絵具の色をまぜて、いろんな色になるのが楽しかった。絵画教室をもっと続けてみたいです。 ・絵を描くのが好きだから、もっともっと練習したい。そして、クラスのマンガ系のリーダーになりたい。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムとして実施した。 参加した小学生たちは、異なる学校や学年の仲間たちと交流しながら、学びを深める有意義な時間を過ごした。また、図書館や学習スペースを活用することで、学びの場としての機能と居場所としての役割を兼ね備えた環境を提供した。本講座は、単なる学習の場に留まらず、小学生が自己成長を実感しながら交流を深め、充実した夏休みを過ごすための大きな役割を果たした。										





4 青少年対象事業

〔1〕少年教室

講座名 タイトル		夏休み南寺子屋 ～ わくわくサマースクール7つの扉！～ ④書道教室								
事業概要		本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムである。受講生は、7つの学習プログラムから自身の興味に応じたものを選び、自分だけの夏休み体験スケジュールを作成することができる。また、受講生が異世代や地域との交流を通して、新しい知識を得るだけでなく、好奇心を深め、成長する機会を提供する。								
現状・課題		地域のつながりが希薄化し、少子化の影響により青少年同士が関わり合う機会が減少している。このような状況下において、地域コミュニティで育つ子どもたちが学び合う機会も少なくなっており、「地域での居場所づくり」が重要な課題となっている。 (引用:内閣府「こどもの居場所づくりに関する調査研究」) また、子どもの夏休みの過ごし方に関する課題としては、「子どもの生活リズムが狂ってしまうこと」が最も多く挙げられている。このような課題への関心が高まる中、夏休み期間中に子どもに金融学習を体験させたいと考える親が増えている。その背景には、新NISA制度や新紙幣発行といった金融制度の変化があり、金融リテラシーの重要性への認識が広がっている。 (引用：ICT教育ニュース「夏休みの家庭での過ごし方に関する意識調査」)								
事業目的 めざす姿		本講座は、小学生を対象に、「集団学習」「異世代交流」そして「小祿地域における居場所づくり」を目的とした活動である。夏休み期間中に定期的な学習機会を提供し、安定した日常生活を支援する。また、異世代間交流を通じて、小学生が集団で互いに学び合う環境を提供する。さらに、金融学習の体験活動を通じて、小学生が金融リテラシーや、実践的な知識を育むことをめざす。								
対 象		那覇市在住・在学の小学生								
募集人数等		定員：20人 申込：28人（うち受講決定数20人） 参加延べ人数：25人 【申込率140%・参加率63%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	7月31日(木)	10:00	～	12:00	小祿南公民館 ホール	14	3	11	
	02	8月7日(木)	10:00	～	12:00	小祿南公民館 ホール	11	1	10	
内容	01	筆の持ち方や姿勢を学ぶ・基本的な筆運びの練習する								
	02	座って書くだけでなく立って書くことで、動きのダイナミズムを体感する。								
講 師		上原 梅花（梅花書道教室）								
【受講生の様子・感想】										
・もっと習字が好きになりたいし、字がきれいになれるよう頑張りたいです。字はほめられることで上達するという事に気づいた。 ・文字の直すべき箇所を見つけて直すことが、まるでミッションに挑戦するみたいで、とても楽しかった。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムとして実施した。 参加した小学生たちは、異なる学校や学年の仲間たちと交流しながら、学びを深める有意義な時間を過ごした。また、図書館や学習スペースを活用することで、学びの場としての機能と居場所としての役割を兼ね備えた環境を提供した。本講座は、単なる学習の場に留まらず、小学生が自己成長を実感しながら交流を深め、充実した夏休みを過ごすための大きな役割を果たした。										





4 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

講座名 タイトル		夏休み南寺子屋 ～ わくわくサマースクール7つの扉！～ ⑤ニュースポーツ							
事業概要		本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムである。受講生は、7つの学習プログラムから自身の興味に応じたものを選び、自分だけの夏休み体験スケジュールを作成することができる。また、受講生が異世代や地域との交流を通して、新しい知識を得るだけでなく、好奇心を深め、成長する機会を提供する。							
現状・課題		地域のつながりが希薄化し、少子化の影響により青少年同士が関わり合う機会が減少している。このような状況下において、地域コミュニティで育つ子どもたちが学び合う機会も少なくなっており、「地域での居場所づくり」が重要な課題となっている。（引用：内閣府「こどもの居場所づくりに関する調査研究」） また、子どもの夏休みの過ごし方に関する課題としては、「子どもの生活リズムが狂ってしまうこと」が最も多く挙げられている。このような課題への関心が高まる中、夏休み期間中に子どもに金融学習を体験させたいと考える親が増えている。その背景には、新NISA制度や新紙幣発行といった金融制度の変化があり、金融リテラシーの重要性への認識が広がっている。（引用：ICT教育ニュース「夏休みの家庭での過ごし方に関する意識調査」）							
事業目的 めざす姿		本講座は、小学生を対象に、「集団学習」「異世代交流」そして「小祿地域における居場所づくり」を目的とした活動である。夏休み期間中に定期的な学習機会を提供し、安定した日常生活を支援する。また、異世代間交流を通じて、小学生が集団で互いに学び合う環境を提供する。さらに、金融学習の体験活動を通じて、小学生が金融リテラシーや、実践的な知識を育むことをめざす。							
対 象		那覇市在住・在学の小学生							
募集人数等		定員：20人 申込：31人（うち受講決定数31人） 参加延べ人数：25人 【申込率155%・参加率81%】							
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性
	01	8月5日(火)	10:00	～	12:00	小祿南公民館 ホール	25	9	16
内容	01	ニチレクボール・ラダーゲッター							
講 師	堀川 江梨子（那覇市スポーツ推進委員） 伊波 佳枝（那覇市スポーツ推進委員）								
【受講生の様子・感想】									
・「ニチレク」は初めてのスポーツでしたが、とても楽しく、これからも続けたいと思いました。 ・ニュースポーツでは頭を使う場面が多いことが分かり、ニュースポーツを、もっと学びたいと思いました。 ・アンケート結果（満足度）84%									
【成果】									
本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムとして実施した。 参加した小学生たちは、異なる学校や学年の仲間たちと交流しながら、学びを深める有意義な時間を過ごした。また、図書館や学習スペースを活用することで、学びの場としての機能と居場所としての役割を兼ね備えた環境を提供した。本講座は、単なる学習の場に留まらず、小学生が自己成長を実感しながら交流を深め、充実した夏休みを過ごすための大きな役割を果たした。									







4 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

講座名 タイトル		夏休み南寺子屋 ～ わくわくサマースクール7つの扉！～ ⑥SDG s 教室							
事業概要		本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムである。受講生は、7つの学習プログラムから自身の興味に応じたものを選び、自分だけの夏休み体験スケジュールを作成することができる。また、受講生が異世代や地域との交流を通して、新しい知識を得るだけでなく、好奇心を深め、成長する機会を提供する。							
現状・課題		地域のつながりが希薄化し、少子化の影響により青少年同士が関わり合う機会が減少している。このような状況下において、地域コミュニティで育つ子どもたちが学び合う機会も少なくなっており、「地域での居場所づくり」が重要な課題となっている。（引用：内閣府「こどもの居場所づくりに関する調査研究」） また、子どもの夏休みの過ごし方に関する課題としては、「子どもの生活リズムが狂ってしまうこと」が最も多く挙げられている。このような課題への関心が高まる中、夏休み期間中に子どもに金融学習を体験させたいと考える親が増えている。その背景には、新NISA制度や新紙幣発行といった金融制度の変化があり、金融リテラシーの重要性への認識が広がっている。（引用：ICT教育ニュース「夏休みの家庭での過ごし方に関する意識調査」）							
事業目的 めざす姿		本講座の目的は、第一に、夏休み期間中における小学生の生活リズムを安定させるため、定期的な学習機会を提供すること。第二に、異世代交流を通じて、集団で学び合う環境とコミュニケーションの場を提供すること。第三に、金融学習の体験を通じて、金融リテラシーを育成し、実践的な知識の習得を目指すこと。							
対 象		那覇市在住・在学の小学生							
募集人数等		定員：20人 申込：23人（うち受講決定数20人） 参加延べ人数：13人 【申込率115%・参加率65%】							
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性
	01	8月14日(木)	10:00	～	12:00	小祿南公民館 ホール	13	2	11
内容	01	SDG s 学習ボードゲーム「Get the point」・小学生向けワークショップ							
講 師	宮里 真作（株式会社クリア SDG s 推進コンサルタント） 伊是名 紀子（大同火災海上保険株式会社 サステナビリティ推進室） 板良敷 朝紀（大同火災海上保険株式会社）								
【受講生の様子・感想】									
・グループ全員で協力し合い、笑いながら学んだことが、とても楽しかったです。来年もぜひ参加したいと思います。 ・みんなで頭を使って、「日本の未来」や「地球の未来」をより良くするための方法を考えた。これをきっかけに、もっとSDGsについて学びたいと感じました。 ・アンケート結果（満足度）85%									
【成果】									
本講座は、夏休み期間中に小学生の学びと居場所を充実させることを目的とした体験学習プログラムとして実施した。 参加した小学生たちは、異なる学校や学年の仲間たちと交流しながら、学びを深める有意義な時間を過ごした。また、図書館や学習スペースを活用することで、学びの場としての機能と居場所としての役割を兼ね備えた環境を提供した。本講座は、単なる学習の場に留まらず、小学生が自己成長を実感しながら交流を深め、充実した夏休みを過ごすための大きな役割を果たした。									





4 青少年対象事業

〔2〕青年講座

講座名 タイトル		フラダンス&ハワイアンキルト								
事業概要		今年ハワイ移民125周年。地理的環境や風土、産業構造が似ている点や、古くから交流が盛んだった歴史的背景から、那覇市とホノルル市は1961年に姉妹都市提携を取り交わし様々な交流が行われている。 市民から要望の多いフラダンス体験やハワイアンキルトに触れることにより、「ハワイ移民125周年」の交流の歴史を学ぶきっかけとする。								
現状・課題		市民一人ひとりが、それぞれのライフスタイルに合わせたスポーツやレクリエーションに触れる機会が少ない。 生涯学習の環境として、地域における公民館活動に気軽に参加し興味を持つような企画（きっかけ作り）が必要である。								
事業目的 めざす姿		身近でスポーツ・レクリエーションができることにより生涯教育、体力の向上、あらゆる世代間交流ができるようになる。 社会体験等の機会を通して、市民一人ひとりが生涯を通して心豊かで潤いと生きがいのある生活を送ることができるようになる。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：10人 申込：14人（うち受講決定数14人） 参加延べ人数：39人 【申込率140%・参加率93%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	9月7日(日)	10:00	～	12:00	小祿南公民館視聴覚室	14	0	14	—
	02	9月21日(日)	10:00	～	12:00	小祿南公民館ホール	14	0	14	—
	03	9月28日(日)	10:00	～	12:00	小祿南公民館視聴覚室	11	0	11	—
内 容	01	(キルト) ハワイの植物をシンメトリックに書き写し仮縫いを行う								
	02	(フラダンス) ハワイアン音楽に合わせウオーミングアップの柔軟 フラダンスの解釈から振り付けまでを学ぶ フラダンスの一曲をマスターし全員で舞台発表まで行う								
	03	(キルト) 模様デザインを本縫い後キルトを完成させる								
講 師		①喜友名由希美 (Hawaiian quilt club 97主宰) ②翁長郁子 (RURUANUA Hula & Ori Tahiti Studio主宰)								
【受講生の様子・感想】 ・今回のように「やってみたい」の一步を踏み出せるきっかけとなる講座があると嬉しいです。 ・ハワイアン音楽とフラダンス、何よりも先生に癒され優しい気持ちになりました。 ・アンケート結果（満足度）90.9%										
【成果】 ・今年「ハワイ移民125周年」を記念して那覇市とホノルルの姉妹都市提携の流れや歴史的交流を学ぶきっかけとして青年講座の対象世代が興味のあるフラダンスとハワイアンキルト講座を企画した。 ・「移民の歴史を身近に感じハワイについてもっと知りたい」「ハワイに想いを馳せた」との意見があり、受講後のフラダンスサークルの見学等、受講者の行動変容がみられた。										





4 青少年対象事業

〔3〕親子ふれあい教室

講座名 タイトル		私たちの文化～親子で染織り“小禄クンジー”～								
事業概要		小禄の文化資源である小禄クンジーの伝統を繋ぎ活動をしている「小禄クンジー研究会」の作業所を訪ね、実際に「小禄クンジー」織りで使う藍染木綿糸と機織機で親子で協力してコースター作りを体験し、より良い親子関係の形成をめざす。								
現状・課題		沖縄の産業の父と呼ばれ、小禄垣花出身の儀間真常を学ぶ機会が少ない。 儀間真常が沖縄にもたらした甘藷や木綿織、砂糖作りの技術や小禄地域の主要産物であった織物（小禄クンジー）のを知る機会が少ない。 地域の伝統文化を継承する作業所を訪問し、地域の歴史文化を知るきっかけを提供する。								
事業目的 めざす姿		人間性豊かな人材の育成をめざし、郷土の歴史と文化を活かした講座を推進する。 親子で地域の歴史・文化に親しみ、社会体験等の場を通して親子のコミュニケーションを深め、よりよい親子関係の形成をめざす。								
対 象		小禄地域の小学校に在学する小学生親子								
募集人数等		定員：8組 申込：21組（うち受講決定数8組） 参加延べ組数：8組（16人） 【申込率263%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	8月13日(水)	13:00	～	16:00	うるくクンジー研究作業所	16	1	7	8
内容	01	地域の歴史とうるくクンジーの起源 儀間真常が沖縄にもたらした産業の功績 うるくクンジーができるまでの工程 戦前・戦後を通して現在に至るまでのうるくクンジーの継承 機織り機でうるくクンジーを織りコースター作りを体験								
講 師	上原 八重子（うるく紺地研究会会員）、他5名									
【受講生の様子・感想】 ・文化継承の活動を実際に行っている方から歴史を学び、親子で実際の作品作りができる貴重な機会でした。 ・綿からタネを取ったり糸を巻いたりつむいだり、はた織りとんとんすることが楽しかった。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】 ・小禄地域(垣花)出身の儀間真常が沖縄にもたらした藍染木綿織、甘藷、砂糖製造の産業について学ぶ事で、同じ地域の偉人を初めて知ることができたと驚きの声があった。 ・「講師の説明がとても分かりやすく親子で協力して機を織りコースターを完成させる達成感があった」と親子で地域的话题を共有し、協力して完成させる達成感を通し親子のより良いコミュニケーションを深めることができた。										





5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

講座名 タイトル		ちょっと個性が強い子の気になる行動～栄養療法で始める我が子の応援法～								
事業概要		保護者が子育てで感じている「個性」や「成長の一過程」で片付けられない子どもの「育てにくさ」や「何となくの不調」は栄養素の質からくるとも言われる。子どもの集中力を高め健康的な発達を促すため、脳と心を育む基盤となる鉄・ビタミン・亜鉛などの栄養に注目し「質的栄養失調」の理解を深め改善をめざす。 さらに発達支援に役立つ栄養の摂り方について、専門医の視点から分かりやすく学ぶ。								
現状・課題		沖縄県内では、発達支援が必要な児童の数が過去10年程で大幅な増加傾向にあり、支援ニーズの高まりを反映している。 乳幼児健診などでの早期発見・早期支援への連携体制づくりや家庭での食育環境、身近な地域や学校等で適切な支援体制が構築できるよう、総合的なサポートが必要になっている。								
事業目的 めざす姿		未来を担う子どもたちが自己の尊厳を保ち、社会を構成する個人として必要とされ、自分を大切に思い安心して豊かな成長が送れるような社会の実現を目指していく。 すべての児童が特性や性別、年齢に関係なく健やかに成長できるよう家庭、学校、地域など児童を取り巻く社会全体が児童の成長を見守る社会を構築する。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の子育て中の人、興味のある人								
募集人数等		定員：50人 申込：65人（うち受講決定数50人） 参加延べ人数：44人 【申込率130%・参加率88%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	12月21日(日)	10:00	～	12:00	小祿南公民館ホール	44	4	40	—
内容	01	栄養についての基本・質的栄養失調 糖質過多の影響・神経伝達物質とは？ 発達課題を抱える子どもに必要な栄養素 栄養素の十分な摂取の効果								
講 師	下山直登（医療法人好縁会理事長・医師）									
【受講生の様子・感想】 ・具体的に仕組みや方法が示されたので、試してみたいと思った。 今回の講座の第2弾、第3弾と続いて欲しい。 ・発達障害に対応できる内容。簡単に取り入れられる。 ・子供たちに対しても同じような栄養と身体の関係について講演して頂けると自主的に行動してもらえる意識づけになるので有難い。 ・アンケート結果（満足度）92.7%										
【成果】 ・保護者から「大まかな説明ではなくポイントをあてた説明・図解が分かりやすかった」「医学を学んでいなくても分子栄養学について理解できた」等の感想があり専門的なより深い学びを得られた。 ・課題のとおり児童の発達や成長についての学習ニーズは高く、保護者をはじめ学童施設や支援センター等教育現場からの参加者もあり、普段できない現場の医師との意見交換に講演後の質疑応答の時間も活発な交流があり、家庭・学校・地域の児童を取り巻く社会全体が児童の成長を見守る環境の構築に期待できる。										



5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

講座名 タイトル		こどもの「ココロ」と「カラダ」を整える大人の教室								
事業概要		日々の子育てにおいて、子どもとの距離感や意思疎通に悩みを抱えている保護者は多い。子どもに向き合う中で「相手の感情や立場を深く理解し、それを言葉や態度で伝え、お互いのニーズ（必要としていること）を満たしながら信頼関係を深める対話技術」の共感的コミュニケーションを学ぶことにより、より良い家庭環境と家庭教育が構築できることをめざしていく。								
現状・課題		沖縄県内では、発達支援が必要な児童の数が過去10年程で大幅な増加傾向にあり、支援ニーズの高まる現状がある。 家庭教育の学習会の提供や情報交換、仲間づくり等を図り、家庭と地域の全体的な教育力の向上を図ることが課題となっている。								
事業目的 めざす姿		未来を担う子どもたちが自己の尊厳を保ち、社会を構成する個人として必要とされ、自分を大切に思い安心して豊かな成長が送れるような家庭環境や社会の実現を目指していく。すべての児童が特性や性別、年齢に関係なく健やかに成長できるように、家庭、学校、地域など児童を取り巻く社会全体が児童の成長を見守る社会を構築する。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の保護者、テーマに関心のある人								
募集人数等		定員：30人 申込：45人（うち受講決定数45人） 参加延べ人数：32人 【申込率150%・参加率71%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	2月7日(土)	10:00	～	12:00	小祿南公民館ホール	32	5	27	－
内容	01	共感的コミュニケーションとは NVC（非暴力コミュニケーション）の具体的な説明 共感的コミュニケーションによるワークショップ								
講 師	新垣道代（家庭教育アドバイザー/ソーシャルワーカー）									
【受講生の様子・感想】 ・グループワーク形式の席の配置であったため、受講者同志が緊張することなく講座を進めていけるように配慮した。 ・受講者からは「グループでカードを使って学び、講義のように聞くより分かりやすかった」「自分の隠れたニーズに気づくことができた」「うまく話せなかったが優しく聞いてもらえた」等の感想があった。 ・アンケート結果（満足度）100% 【成果】 ・カードを使い相手の感情や立場を深く理解し、お互いのニーズを満たしながら信頼関係を深める対話技術を体験することで自己理解・自己共感できたという声が多くあった。 ・相手の言いたいこと（ニーズ）を知る、自分の感情に気づく、子どもに向き合う本質を知る…多くの受講者から「家庭教育に活かせる体験を共有できた」との感想があり、本講座の家庭教育学級の主旨に沿った運営ができた。										





5 家庭教育事業

〔2〕乳幼児学級

講座名 タイトル		すこやか子育て応援教室								
事業概要		乳幼児期は、親子の“安心の土台”がゆっくりと育まれていく大切な時期。乳幼児の命を守るAEDの使い方や心肺蘇生法、安心の土台を整えるアロマワークショップ、幸せホルモンとタッチの関係や脳と皮膚の深い繋がり仕組みを学び、子どもや子育てをする保護者自身の「安心」「緊張」「つながり」のサインを理解し、乳幼児期の“幸せ体質”を育むヒントを学ぶ。								
現状・課題		保育園やこども園を利用していない「子育て」が「孤(独)育て」育児になり、不安を抱えている保護者がいる。 子育てに係る不安や疑問、育児のストレス緩和について情報の入手や同じ子育て仲間との交流を図る機会が少ない。								
事業目的 めざす姿		保護者の育児中の不調や子どもの発育の不安を共有できる仲間づくりや情報交換の場を提供し、いきいきと子育てができる社会環境を構築する。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の0歳～未就学児童のいる保護者								
募集人数等		定員：10組 申込：10組（うち受講決定数10組） 参加延べ組数：24組（49人） 【申込率100%・参加率82%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	11月17日(月)	13:30	～	15:00	小祿南公民館視聴覚室	21	2	9	10
	02	11月21日(金)	10:00	～	12:00	小祿南公民館会議室B	8	0	4	4
	03	11月28日(金)	10:00	～	12:00	小祿南公民館会議室B	20	1	9	10
内容	01	乳幼児のケガや病気、もしもの時に冷静に対応できるAEDや心肺蘇生等の応急処置を学ぶ								
	02	アロマの香りが脳と感情に働きかけるメカニズムを理解し、心に寄り添う内観ワークを行う								
	03	子育てポリヴェーガル理論をもとに乳幼児期における「安心の土台」の大切さを理解する								
講 師		①那覇消防局（救急課） ②國吉さつき（ゆめほわ子育てラボ主宰）								
【受講生の様子・感想】										
・全3回バラエティーに富んでいて、託児で子供も見てもらうことができて大満足の内容でした。 ・妻の代理で参加。職員の対応しかり、内容が子どもに関する事だけに限らず親である私自身が気づかされたことが多く非常に良かった。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
・子育ての情報や経験をシェアすることで気持ちに余裕が生まれることを実感できた人が多かった。 ・具体的に那覇市の乳児通園支援事業である「こども誰でも通園制度」の内容を皆で調べたり、育児の情報交換を行う中で仲間づくりや交流の場としての乳幼児学級の目指す姿に近づけた。										





6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		戦後80年～語り受け継ぐ沖縄戦～（平和教育/金城中学校）								
事業概要		沖縄県平和祈念資料館設立に携わり南部地域の小中学校で平和学習の講話を行ってきた元小学校長を講師に招き、金城中学校において全校生徒を対象に平和教育の講演を実施する。 講師は地域の現自治会長（鏡水自治会）であり、地域の人材活用について学校に提案し調整した結果、地域連携事業の実施に至った。								
現状・課題		戦後80年の今年、戦争体験者の高齢化により沖縄戦の語り部が減少していく中で、若い世代が戦争の事実を知る機会が減っている。 「戦争の記憶を継承する担い手の世代交代」は沖縄の課題となっている。 世界ではロシア・ウクライナ戦争やガザ紛争等、武力衝突が起きている現実があり、この戦後80年の視点から改めて沖縄戦の歴史を振り返り、事実を学ぶことで平和について新たな知見を得ることができる。								
事業目的 めざす姿		「戦争のない平和な沖縄」を守り続けるため、戦争を知らない若い世代が、戦争によってもたらされる惨禍を理解し、平和な社会の実現のための知識や能力を育むことを目的とする。								
対 象		那覇市立金城中学校（全学年）								
募集人数等		参加延べ人数：550人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月18日(水)	14:00	～	14:50	金城中学校視聴覚室	550	0	0	550
内容	01	なぜ沖縄が戦場になったのか（屋嘉節の解説） 沖縄戦の始まり（米軍の総力・慶良間諸島上陸・10.10空襲） 沖縄戦の経過（ペリー提督の来琉・鉄の暴風・沖縄戦の戦死者数） 沖縄戦が終わって（小那覇舞天の「笑い」の中の生きる力と平和の意味）								
講 師	平良 正栄 （小禄鏡水自治会会長 / （元小学校長・元沖縄県平和祈念資料館委員）									
【受講生の様子・感想】 ・複雑な感情になりました。今年仙台から来て沖縄戦はこんなに辛くて苦しい出来事なのに詳しく勉強してこなかった。同じ日本だからお互いの出来事をしっかり共有すべきだと思いました。 ・「命は、富士山や太平洋を埋めつくすお金であっても取り返すことはできない」「平和とは、感情を素直に出し命を大切にされること」という言葉が強く心に響いた。										
【成果】 ・「これまでの平和学習とは異なり心に響いた」と意見が多かった。沖縄戦がなぜ始まったのか…という歴史的な背景、書いた文字を読むだけでは得られない沖縄戦の実相（詳細な内容）を語られる言葉を通して理解が深まり、生徒各々に平和を希求する大きな意識の変化があった。 ・また大きな悲しみの中で心に灯りを灯した小那覇舞天のようになりたいとの意見もあり「平和についての新たな知見を得る」という本事業の目指す姿に近づいた。										





6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		小祿南公民館へ行こう！								
事業概要		小学生を対象に、夏休み子どもの居場所として4つのイベントを企画。「①工作しよう」「②ふしぎなお話会パート1」「③ニュースポーツ」「④ふしぎなお話会パート2」を通して、子どもたちの居場所づくりに加えて夏休みの宿題の手助けになるような内容を盛り込み実施する。								
現状・課題		前年度取り組んだ「子どもの居場所」では、空き部屋を学習のお部屋として解放したが、利用者があまり多くなかった。 空き部屋の解放だけでなく、明確な目的をもったイベントを実施し、さらに広報をしっかりと行うことが課題である。								
事業目的 めざす姿		地域の子どもたちと公民館職員との交流を図り、今後の公民館の利用や公民館のイベントへの集客に繋げる。 自分の住む地域に「公民館」がある。公民館に行けば「大人がいる」ということを知ってもらおうねらいもある。								
対 象		那覇市在住・在学の小学生								
募集人数等		定員：無し 参加延べ人数：97人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	8月12日(火)	10:00	～	12:00	小祿南公民館ホール	35	-	-	35
	02	8月18日(月)	10:00	～	12:00	小祿南公民館視聴覚室	10	-	-	10
	03	8月19日(火)	10:00	～	12:00	小祿南公民館ホール	33	-	-	33
	04	8月25日(月)	10:00	～	12:00	小祿南公民館和室	19	-	-	19
内容	01	「工作しよう」 からくりちょうちょ・SDG s ブローチ・手まわしせんぷうき								
	02	「ふしぎなお話会パート1」 社会教育指導員による読み聞かせ								
	03	「ニュースポーツ」 ニチレクボール・ラダーゲッターの体験								
	04	「ふしぎなお話会パート2」 社会教育指導員による読み聞かせ								
講 師		喜瀬乗英、小渡美奈（公民館館長）、上原孝雄（社会教育指導員）、中江房子（社会教育指導員）								
【受講生の様子・感想】										
- 施設見学の際に夏休みのイベント案内を聞いて、参加してくれた子がいた。 - 参加者は色々な学校から来るので、最初は物静かにしていた子どもたちだったが、慣れてくると互いに声を掛け合って競技したり、盛り上がっていた。										
【成果】										
- 誰でも気軽に参加してほしいとして、事前申し込み制にはしなかった。これにより祖母のサークル活動についてきた孫の参加があったりと、利用者と主催者のどちらにも利点があったと感じる。 - 全日程参加する子も見受けられ、公民館職員との交流も深まり、「子どもの居場所」の役割ができていることを実感した。										





6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		もちつき in 小禄南公民館まつり								
事業概要		公民館まつりのオープニングイベントとして、コロナ禍以来はじめての「もちつき」を実施する。								
現状・課題		外壁塗装工事により2年ぶりの開催となった公民館まつり。サークル会員数やまつり参加者が減少傾向にあるなか、だれでも気軽に参加でき、楽しめる「もちつき」で集客及び盛り上げを図る。								
事業目的 めざす姿		子どもから高齢者まで幅広い年齢層の交流を図る。 利用団体や地域の方々にボランティア協力を依頼し、運営を行う。 来館者に対して、公民館の場所や雰囲気を知ってもらうキッカケを作る。								
対 象		どなたでも参加可								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	1月31日(土)	10:00	～	12:00	小禄南公民館	300	-	-	-
内容	01	もちつき								
【受講生の様子・感想】 - 子どもから高齢者まで、地域の方々を中心にたくさんの参加があった。 - 近隣の保育園から団体で参加する様子も見られた。 - 運営ボランティアの方々からも好評で、「また次回も実施してほしい」という声があった。										
【成果】 利用団体関係者以外に、近隣の学童、高良小学校区まちづくり協議会からボランティアが複数集まり、安全かつスムーズなオペレーションができた。										







6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		フードドライブ+（プラス）									
事業概要		家庭やお店などで余っている食品、日用品等の寄付を募り、那覇市社会福祉協議会へ寄贈することにより地域の福祉力、協働力向上を図る。									
現状・課題		子どもの貧困解消が沖縄の課題として問題視されている中で、フードボックスを設置する必要性は高い。									
事業目的 めざす姿		常設のフードボックスを設置し家庭等での余剰食品、日用品等の寄贈を受け、那覇市社会福祉協議会へ寄贈することにより地域の共助の力を育み、地域福祉力、協働力向上を図る。									
対 象		どなたでも参加可									
募集人数等		参加延べ 38人									
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども	
	01	随時	9:00	～	22:00	公民館事務所前	38	—	—	—	
内容	01	食料品、生理用品、日用雑貨、子供用品等の寄贈受け入れ。									
講 師	無し										
【講座の様子・感想】 11月末にボックスを設置し3月末現在までで38人、135件の寄贈があった。 内容もお米、カップ麺、缶詰、紙おむつなど多様な品目があった。											
【成果】 ボックスの設置は遅かったが徐々に認知されてきていて、いろいろな品物の寄贈がある。 地域の共助の意識の高まりが感じられる状況となってきた。											





6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		おもちゃ病院 in 小禄南公民館									
事業概要		壊れたり、動かなくなったりしたおもちゃを修理する場を設けるため、那覇市小禄南公民館がおもちゃ病院 in 那覇のおもちゃドクターと協働でおもちゃ病院を開設、運営する。									
現状・課題		消費社会の現代はおもちゃも簡単に手に入り、使い捨ての現状もあり、物を大切にする心やおもちゃへの愛着心、豊かな情操を育みづらい。									
事業目的 めざす姿		壊れたり動かなくなったりしたおもちゃを修理し、また動くようにすることは、物を大切にする心やおもちゃへの愛着心、豊かな情操を育み、子供の成長に大きく寄与する。									
対 象		どなたでも参加可									
募集人数等		定員：無し 申込 69人 参加延べ 69人									
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども	
	01	奇数月第4日曜日	10時	～	15時	小禄南公民館中研修室	69	—	—	—	
内容	01	おもちゃの動作確認、点検、修理									
講 師		おもちゃ病院 in 那覇のおもちゃドクター 4人									
【講座の様子・感想】 アンケートを取っていないため満足度等の集計はできないが、月平均12件、19個の受付があり非常に需要が高く、喜ばれている。											
【成果】 今年度6回の開催で69件、113個の受付があり、多くの方に必要とされている実感がある。 おもちゃを修理する手元を観察する子どもたちの目の輝きや、直ったおもちゃを大事そうに抱えて帰る子どもたちを見ると、子供たちの成長に貢献していると感ずる。											



6 その他の事業

〔2〕うるく地域づくり連絡協議会

タイトル	地域学習会「絵本であそぼう」
趣 旨	絵本の読み聞かせや絵本を使った体操、折り紙などをおして、絵本の世界を体験し、子どもの心・体・創造力を育むことを目的とする。
対 象	小禄地域の小学生、幼児・園児は親子で参加
日時・場所	5月25日(日) 14:30～16:00 小禄南公民館ホール
受講者数	30名 (受講料無料)
講 師	知念勇喜(絵本・知育玩具普及指導員) 知念康代(日本マタニティフィットネス協会フィットネスインストラクター)



タイトル	親睦グラウンドゴルフ
趣 旨	小禄地域の会員の親睦と交流を図り活性化を目的とする
対 象	小禄地区に在住する市民
日時・場所	7月5日(土) 9:30～11:30 具志自治会グラウンド
参加者	36名 (参加費500円 ※保険料他)



6 その他の事業

〔2〕うるく地域づくり連絡協議会

タイトル	創立30周年記念 小禄地区市民大運動会		
趣 旨	小禄地区の自治会を中心に、小禄地域に在住する幼児から成人にいたる多くの市民が参加することによって交流を深め、地域社会の活性化を目指す。		
対 象	小禄地区の市民・団体		
日時・場所	11月2日(日)	8:30～16:00	金城中学校グラウンド
参 加 者	約2,000人		



タイトル	第30回うるく村あしび		
趣 旨	小禄地区を中心に活動する期間や団体が、日頃の活動を紹介し地域の郷土文化を見直すことで地域連携を図るとともに、よりよい地域づくりに役立てることを目的とする。		
対 象	小禄地区の市民・団体		
日時・場所	2月28日(土)	13:30～15:50	ともかぜ振興会館ホール
参 加 者	約400人		



7 小禄南公民館まつり

講座名 タイトル		第41回 小禄南公民館まつり								
事業概要		2年ぶりの開催となる公民館まつり。定期利用団体連絡会会員による日頃の成果を舞台発表や展示発表を通して披露する。								
現状・課題		サークル会員数は年々減少傾向にあり、それに伴い舞台発表の出演団体も少なくなっている。 気軽に足を運びたいと思ってもらえるような企画を盛り込むことが必要である。								
事業目的 めざす姿		子どもから高齢者まで幅広い年齢層の交流及び利用団体連絡会会員同士の交流を深める。 公民館やサークル活動の周知を図り、今後の公民館利用やサークルへの参加に繋げる。								
対 象		どなたでも参加可								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	1月31日(土)	10:00	～	16:00	小禄南公民館	350	-	-	-
	02	2月1日(日)	10:00	～	15:00	小禄南公民館	600	-	-	-
内容	01	もちつき、展示発表、喫茶、体験、フリーマーケット、0円マーケット、上映会								
	02	舞台発表、展示発表、喫茶・軽食、体験、フリーマーケット								
【受講生の様子・感想】										
・子どもから高齢者まで、地域の方々を中心にたくさんの参加があり、中には保育園や学童など団体での参加も見受けられた。 ・舞台発表、展示だけでなく、喫茶・軽食販売やフリーマーケット、上映会など、様々な企画（コーナー）があることで、気軽に足を運べるまつりになった。										
【成果】										
・前日準備から片づけまで、利用団体同士が協力し合いながら作業し、交流を深め、まつりに対する士気が高まる良い機会となった。 ・まつりの後には、サークルのお問合せもあり、実際に見学に訪れる人も増えた。										





